

よりよい学級の生活づくりに向けて、互いに尊重し、よさを認めあう子どもを育成するためにはどうすればよいか

—子どもと教師のマネジメントサイクルの関連付けを通して—

伊達市立白根小学校 教諭 佐藤 和仁

1 研究の趣旨

一年次は、特別活動、特に学級活動を中核として教師の意図的、計画的な指導（教師のマネジメントサイクル）の在り方についての研究を深めてきた。その中で見えてきたことは、所属感、自己有能感といった学びの実感が子どもの自主的な力をはぐくむための大切な原動力になるということである。さらに、こうした実感をより深めるためには、子どもたち自身が計画を立て（Plan）、実践し（Do）、振り返り（Check）、次の活動へ生かす（Action）という自主的な一連の活動（子どものマネジメントサイクル）が重要であることも見えてきた。

そこで二年次は、子どもの学びの実感の伴った自主的なマネジメントサイクルと教師のマネジメントサイクルの関連を図ることにより、主題で求める子どもの姿に迫ることができるのではないかと考え、副主題を設定した。

以下の視点（2「研究の概要」参照）に基づき具体的な手だてを講じていけば、主題で求める子どもの姿をはぐくむことができるであろう。

2 研究の概要

(1) 子どもと教師のマネジメントサイクルの関連付けによる授業実践

学級活動(1)において、子どもの学びの実感を適切に反映させた教師の意図的・計画的指導を実現させるために教師のPDCAが子どものPDCAを一つ先行させるように設定し、以下の4つの視点に基づいてステップ5～7の3回*実施する。

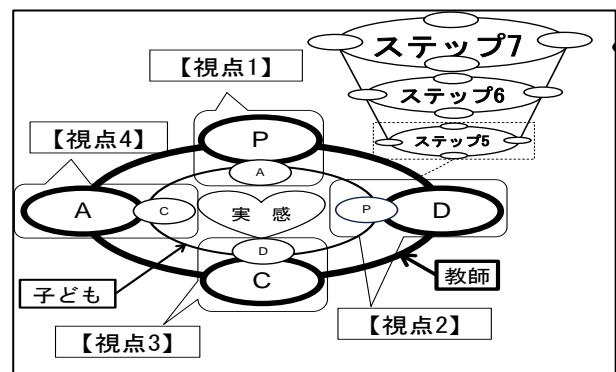
※ ステップ1～4については一年次に実施

視点1 子どもの改善点を踏まえたテーマスキルの設定と指導計画作成

視点2 子どもの経験のよさを生かした事前の活動の指導

視点3 学びの実感を大切にする見取りと価値付けの在り方

視点4 テーマスキルと子どもの振り返りを関連させた改善の検討



3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

教師のPDCAが子どものPDCAを一つ先行するように両マネジメントサイクルを位置付け、4つの視点で有機的に関連付けることが子どもの実感を踏まえた意図的・計画的指導の実現に結び付いた。実践前後のアンケート分析や実践過程における抽出児の変容からは、学びの実感や自主性が高まったことが分かる。

以上より、子どもと教師のマネジメントサイクルを関連付け、積み重ねることが、所属感や自己有能感を高め、自主性を養うことにつながり、よりよい学級の生活づくりに向けて互いに尊重し、よさを認め合う子どもの育成に有効であることが明らかになった。

(2) 今後の課題

本研究は中学年を対象にして進めた。今後は、低学年や高学年の発達の段階に即した学級活動指導や、児童会活動やクラブ活動などの異年齢集団の指導における子どもと教師のマネジメントサイクルの関連付けの在り方について研究を深めていきたい。